



E3G

# 防災と気候への強靭性(レジリエンス)を 持続可能なファイナンスに統合する機会

Kate Levick, プログラムリーダー,  
持続可能なファイナンス

2020年6月

- **仙台防災枠組:** “災害リスク情報を考慮した公的・民間投資を通して、潜在的なリスク要因に対処することは、発災後の応急対応や復旧に第一義的に依存するよりも費用対効果があり、また持続可能な開発に資するものである。”
- **欧州委員会の持続可能なファイナンス行動計画:** “環境および気候リスクは、現状、ファイナンス部門によって適切に考慮されているとは必ずしも言いがたい。”
- **EFDRR (欧州防災フォーラム)のローマ宣言:** “持続可能なファイナンスに関する進行中の幅広い発展の機会を最大限に活用し、災害への強靱性(レジリエンス)を構築するための、リスクや気候を考慮した公共および民間投資を促進する。”



E3G

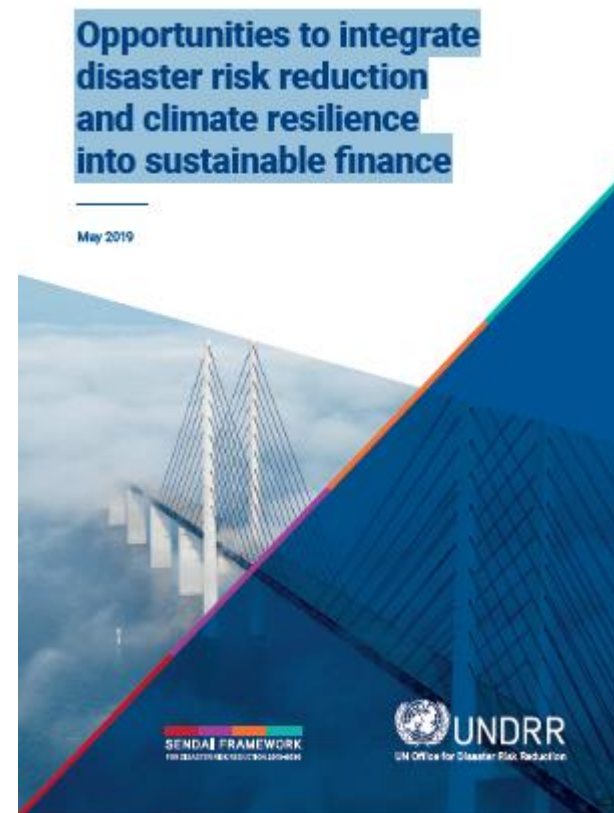
# ファイナンスの文脈

- 2019年までの10年間で、ヨーロッパの3か国が、嵐、洪水、地震による経済的損失の世界トップ10に入った: フランス(433億ドル)、ドイツ(579億ドル)、イタリア(56.6億ドル)。
- ヨーロッパでは、規制下の第三者である管理者によって管理されている資産は、2017年に25.2兆ユーロに達した。
- ブラックロックは、上場投資信託における持続可能な資産のシェアが、2019年の3%から2028年までに21%になると予測した。
- 欧州委員会は、ヨーロッパの持続可能なファイナンスギャップを年間1,800億ユーロと推定している。その持続可能なファイナンス行動計画は、これらの資金源を定義し、成長させるために、新しい市場ルールとインセンティブを定めた。欧州委員会は現在、更なる措置を含めるために、更新版の持続可能なファイナンス戦略について協議している。

# 行動のための推奨

2019年にUNDRRとE3Gは以下の内容を含む報告書を出版した:

1. 災害リスクと持続可能なファイナンスを統合する根拠・合理性;
2. 欧州委員会の持続可能なファイナンス行動計画に規定された行動のレビュー、およびこれらの政策分野における最新の動向;
3. 欧州の持続可能なファイナンス改革の次のフェーズのための11の「探索する分野」の特定。
4. これらの行動を国際的な文脈に翻訳するための提案。



- すべての投資はリスクに強靱（レジリエント）である必要がある。そうしないと、特定のリスクだけでなく、体系的かつ連鎖的な金融リスクにも直面する。
- 災害リスクはまだファイナンスにかかる意思決定に統合されていないため、現在、不適切な適応に投資している。
- 強靱性（レジリエンス）は、社会契約の一部であり、「公正な（適正な）移行」であるが、強力な政治的支持はなかった—この状況は、今、パンデミックにより変化するか？



E3G

# ありがとうございました

より詳細な情報は下記へ:

- [kate.levick@e3g.org](mailto:kate.levick@e3g.org)
- <https://www.preventionweb.net/publications/view/65291>